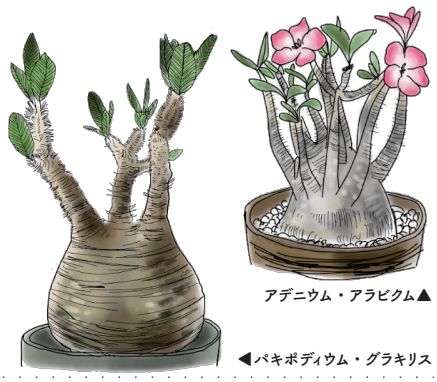
生育型を知って、育てる。

『塊根植物の年間管理』

他の植物同様、塊根植物もまた生育期と休眠期を繰り返しながら生長します。南アフリカやマダガスカルなどが原産の塊根植物ですが、日本では生育期と休眠期のサイクルの違いから、「夏型」「春秋型」「冬型」の3つの生育型に分けられます。そして、それぞれの時期に合わせ、メリハリのある管理を行うことが、栽培成功への一歩になります。



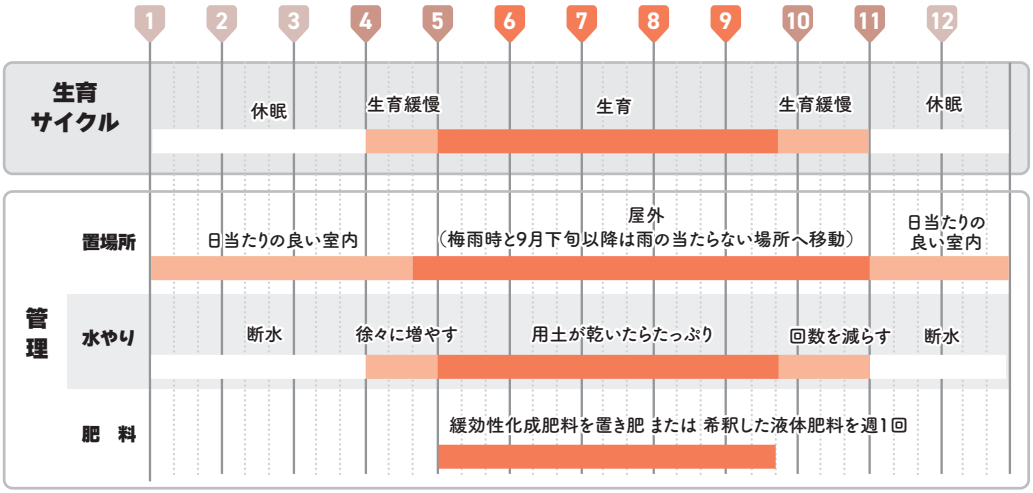
アデニウム・アラビクム▲

◀パキポディウム・グラキリス

夏型種

春から生育し始め、気温が高くなる夏に活発に生育。秋、気温が下がるにつれ生育が緩やかになり、冬は休眠する。

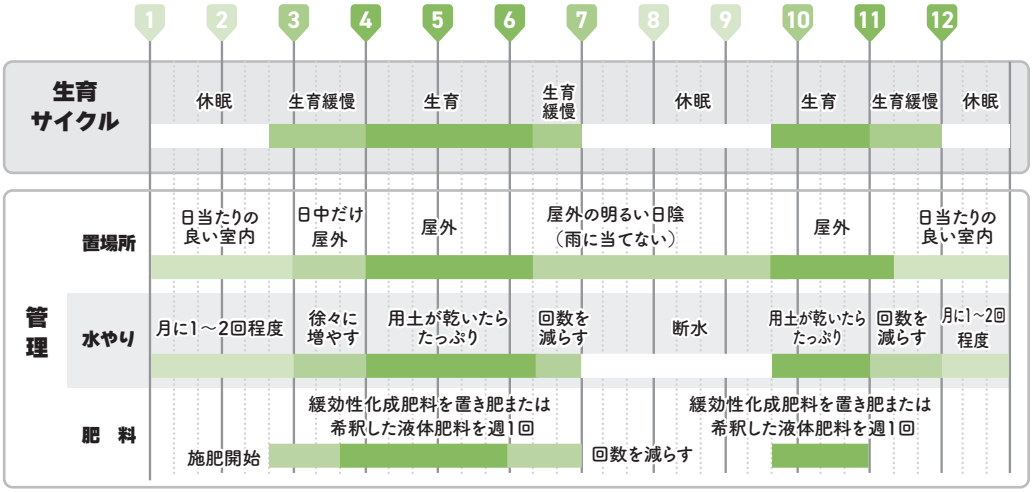
ユーフォルビア属、パキポディウム属、アデニウム属など。



春秋型種

気候の穏やかな春と秋に生育。暑過ぎる夏は生育が緩慢になり、寒過ぎる冬は休眠する。

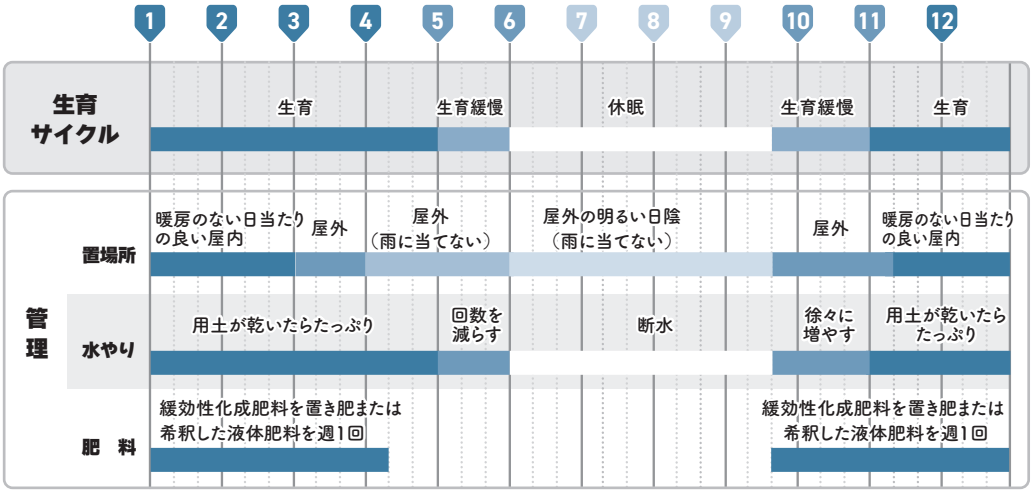
ユーフォルビア属の一部など。



冬型種

気温が下がってくる秋に生育し始め、気温が低い冬に生育。春、気温が高くなると生育が緩やかになり、夏は休眠する。

オトンナ属、ペラルゴニウム属、モンソニア属など。



変だけど、かっこいい！ 珍だから、惹かれる！！

『塊根植物』

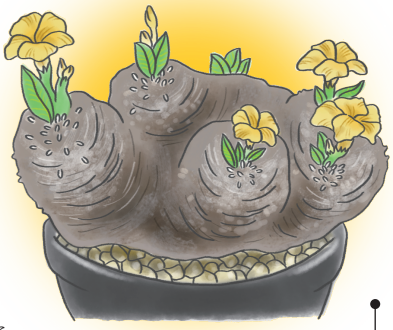
アンバランスなほどに、根や茎が大きく膨らんだ奇妙なフォルム！かと思えば、驚くほど美しい花を咲かせたり…不思議な魅力いっぱい！人気急上昇中の塊根植物。ここでご紹介するのは、ほんの一部ですが、これだけでもその独創性を十分に感じていただけるハズ！

夏型種

ユーフォルビア・グロボーサ ″玉鱗宝″

トウダイグサ科ユーフォルビア属 / 南アフリカ・東ケープ州原産

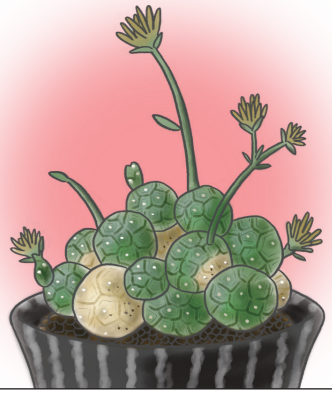
塊茎の上に、玉のような丸い茎が積み重なるように生えてこんな形に。細長く伸びた花茎の先にキクに似た花を咲かせる。



パキポディウム・ブレビカウレ ″恵比寿笑い″

キョウチクトウ科キョウチクトウ亜科パキポディウム属 / マダガスカル中央高地原産

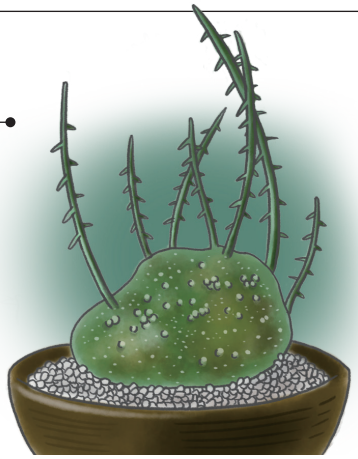
まるでショウガのような塊茎は、ほとんど伸びず塊状に生長する。ごく短い花茎に1～2輪つく黄色の花は、とても鮮やかで可愛らしい。



アデニア・グロボーサ

トケイソウ科アデニア属 / ケニア、タンザニア、ソマリア原産

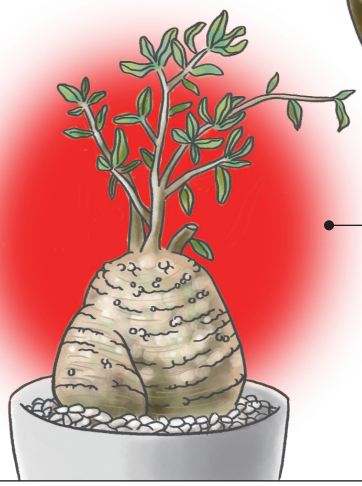
緑色のゴツゴツとした塊茎からトゲの生えた枝を伸ばす。大株になると、ジャスミンのような香りの、淡いクリーム色の花が鈴なりに咲く。



フォッケア・エデゥリス ″火星人″

キョウチクトウ科ガガイモ亜科フォッケア属 / 南アフリカ原産

日本でも古くから親しまれる塊根植物の人気種。ぽってりとした塊茎から伸びるツルは、全体のバランスを見ながら、繰り返し剪定しても良い。

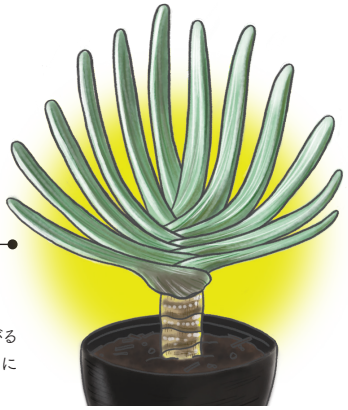


春秋型種

クマラ・プリカティリス ″乙姫の舞扇″

ススキノキ科ツルボラン亜科クマラ属 / 南アフリカ・西ケープ州原産

自生地では5mほどに成長する。扇のように広がる葉が印象的で、時々鉢の向きを変えて均等に日に当てると、美しい扇状をキープできる。



パキポディウム・ナマクアナム ″光堂″

キョウチクトウ科キョウチクトウ亜科パキポディウム属 / 南アフリカ・北ケープ州、ナミビア原産

円柱状の塊根をびっしり覆う鋭く長いトゲ、塊根の先端にだけ茂る波打つ葉が特徴。パキポディウム属では珍しい春秋型。

冬型種

オトンナ・ユーフォルビオイデス ″黒鬼城″

キク科オトンナ属 / ナミビア・カラス州南部、南アフリカ・北ケープ州原産

自生地で大きく育っても高さ30～40cm程度の低木タイプ。秋から春にかけて黄色の花を咲かせ、花後は花柄がそのままトゲのように残る。

モンソニア・ムルチフィダ ″月界″（サルコカウロン・ムルチフィズムと同種）

フウロソウ科モンソニア属 / ナミビア・カラス州南部、南アフリカ・北ケープ州原産

よく分岐する塊茎から、微毛の生えた細い葉を茂らせる小型種。直径3cmほどのピンク色の花は美しく、トゲもないので、盆栽のようなイメージで楽しめる。

株式会社花ごころ 〒454-0911 名古屋市中川区高畑1-52